



## 教職員の現状は

創清新海クラブ 久保田 英賢

**問** 市内小学校の正規職員数33人のうち、40代の男性教職員が10人、女性教職員が31人、次代を担う管理職候補教職員の低年齢化が起きており、中学校を見ても同様な傾向です。この現状に対し、市としてどのように対策を行うのか伺います。また、えびなっ子しあわせプランの中で若い教職員の皆様の指導力向上を図り、あわせて学校経営能力もつけることを目的として、現在、さまざまな研修を行なっているとのことで、具体的な研修について伺います。

**答** (教育長)：今後の管理職の登用については、将来的な展望にたち、若手教員を積極的に総括教諭や指導主事に起用し、業務を経験させるなど人材育成を図る中で、若手の管理職の登用を拡大していくことを検討しています。併せて、管理職、総括教諭の登用における年齢制限などの資格要件緩和を県教育委員会に要望し適切な教職員の配置を進めます。研修については、市主催として「指定研修」と「希望研修」があり、また県主催として「年次研修」を行っています。市では、年に応じた研修が途切れなくよう工夫し、教職員としての教養や資質の向上に努めています。

- ・高齢者支援について
- ・いじめ対策について

その他の質問



## 学校給食での地産地消の推進を

市政改革の会 鶴哲 真澄

**問** 市は、市の創造館において市内小学校12校の給食を実施していますが、給食全体に占める地場産の食材使用比率は低い状態だと思います。国や県は27年度に地場産使用比率を30%にするよう求めています。地場産使用比率の向上は、児童生徒の食育の推進や農業振興にも効果があります。

従って、学校給食に、安心かつ新鮮な地場産の食材を積極的に導入すべきであります。季節的には、イチゴミルクやトマトジュースの飲物や毎月2~3回を「海老名産デー」と設定し、その日に集中して地場産の食材を使用することになります。そのためには、幅広く生産者の協力を仰ぐ事が重要であります。市の考えを伺います。

**答** (市長)：海老名で採れた新鮮な食材を学校給食の食材として使ってほしいと願つております。今後、市として学校給食による地産地消を更に推進していくと考えています。

**答** (教育部長)：海老名産給食デーの設置については、すでに「かながわ産品学校給食デー」として実施しており、今後も海老名産の食材の割合や回数を増やすことで充実をさせていきたいと考えています。

- ・排水路などの管理について

その他の質問



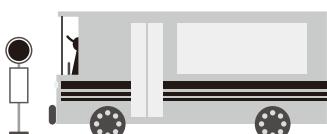
## 南部地域の交通施策 路線バス実証運行について

志政会 藤澤 菊枝

**問** 市は、本年第1回定例会にて、「10月を目標に「ミニユーティバス本郷ルートの代替措置として、民間路線バスの運行を調整している」との答弁でした。本定例会に提出された一般会計補正予算には関連経費が計上されておりますが、今後の関係者間との調整や、実証運行の効果について市の見解を伺います。また、本郷ルートの課題についての対応や、本郷東側地域の高齢者対策について市の見解を伺います。

**答** (市長)：本郷ルート代替手段としての海老名~寒川駅間の民間路線バス実証運行は、寒川町やバス事業者と協議し、10月から6カ月間の実施を考えています。

**答** (まちづくり部長)：運行に伴い、両自治体間の交流や海老名駅・本郷地区の商業施設への来客数増加が見込まれます。また、バス停留所を2カ所新設し、運行も平日で本郷ルートの往復16便から20便に増便し、通勤時間帯も考慮します。また、高齢者対策としては、バスが市道8号線を通り寒川駅に向かうため、現在、中野および門沢橋地区を運行している「ぬくもり号」で対応するよう協議を進めています。



- ・教育委員会制度と運用について

その他の質問



## 雨水整備計画の進捗は

日本共産党 佐々木 弘

**問** 市内下水道整備について、雨水問題に関する、特にどの地域に課題があると市は認識しているか、また26年度以降、具体的にどう事業を進めていくのか、市の考えを伺います。

**答** (市長)：雨水の整備進捗率は約42%となっています。「雨水整備計画」では、1時間に50ミリの雨水処理が可能となっていますが、近年、気候変動の影響もあり、この計画を上回る降雨が多くなっており、昨年は観測史上最大の1時間あたり100ミリ超の豪雨により、市内で被害が発生しました。整備計画に基づき、着実に整備の進捗を図るとともに、雨水の放流先である河川整備の遅れに対し、管理者である県に、改修の早期実施の要望を行ってまいります。

**答** (建設部長)：今後の整備にあたっては、昨年作成した「内水ハザードマップ」で想定される浸水区域や被害の状況を考慮し、投資効果を最大限に生かせるよう計画の見直しを行うとともに、重点的な雨水整備を図ります。26年度は、東柏ヶ谷・国分・社家地区の雨水整備を引き続き進め、新たに河原口地区の整備に着手します。

- ・教育委員会制度と運用について

その他の質問